

全国福祉校長会『調査研究』第2弾完成

全国福祉高等学校長会理事 池田 延己
(函館大妻高等学校長)

令和元年度「社会福祉振興・試験センター」の補助を受けて、『新学習指導要領に基づく福祉系高等学校の教育実態に関する調査研究』が令和2年3月に完成し、福祉系高校に配布された。平成29年度に第1回目の補助を受けて以来2度目の全国調査の冊子刊行となった。調査は三重県立伊賀白鳳高校（現：三重県立白子高校教頭）の鈴木幹治先生と愛知県立海翔高校（現：愛知県立福知山高校）の高木 諒先生を中心に、全国福祉校長会調査統計部が主幹となって実施された。

調査の目的は、進路状況や新学習指導要領への準備等を把握することにより、福祉系高等学校の実態を明らかにし、地域を支える福祉人材育成を目的とする福祉系高等学校の現況及び課題等を整理することで、国家資格取得や進路状況等は前回の調査と継続性を持たせることとした。加えて今回は、新学習指導要領に基づく教育実態についても新たに調査項目に加えた。

北海道置戸高等学校の水谷 愛先生の、『生徒のチャレンジを応援～地域と連携した福祉教育の実践～』の原稿も掲載されています。

主な概要をお知らせします。

1. 福祉系高等学校概要

福祉系高等学校指定校数	112校（平成31年4月現在）
卒業生数	2,563人（平成31年3月現在）
入学定員	3,981人（平成31年4月現在）
入学者数	2,905人
定員充足率	73%

2. 介護福祉士国家資格取得状況（新卒者）の推移（全国福祉高等学校長会調べ）

第24回（平成23年度）	83.6%	受験者全体	63.9%
第25回（平成24年度）	86.9%		64.4%
第26回（平成25年度）	88.1%		64.6%
第27回（平成26年度）	85.3%		61.0%
第28回（平成27年度）	86.4%		57.9%
第29回（平成28年度）	85.3%		72.1%
第30回（平成29年度）	86.6%		70.8%
第31回（平成30年度）	87.8%		73.7%

3. 福祉系高校卒業後の進路状況

- ①「就職」「進学」「その他」で分類したところ、全体的に就職が進学より少し多い傾向を示している（60：38）が、平成26～7年度を境に進学者が増加傾向（55：42）にある。
- ②「介護職」「福祉・医療職」「一般職」に分類。介護職90.1%、福祉・医療職1.6%、一般職8.3%となった。
- ③介護就職者の就職先地域では、在籍した高校のある都道府県内に就職（いわゆる地元就職）をした生徒は90.3%と高い割合になった。福祉系高校は、地域の介護職を養成していることがうかがえる。

4. 介護就職者の3年後定着状況

介護就職者の3年後の介護定着率は73.9%、離職率は23.1%であった。全国平均は73.9%となった。定着率の低い地域は①北海道55.6%、②関東60.7%、③中国69.9%で、定着率が高い地域は①四国90.6%、②北信越85.5%、③近畿80.4%となっている。

5. 福祉系高校卒業後の進学状況

「福祉系大学」「福祉系短期大学」「福祉系専門学校」「医療系大学」「医療系短期大学」「医療系専門学校」「その他の進学」で分類。77.4%が福祉・医療系に進学。その他の分野に進学する者は22.6%であった。中でも、医療系専門学校進学者が35.7%で、看護師やリハビリテーション職（理学療法士や作業療法士など）などをを目指すものであると考えられる。また、福祉系大学への進学者が18.1%と一定数おり、社会福祉士や精神保健福祉士、高校「福祉」教員を目指す生徒もいる。